

② 「国家」に係る学習

2年生では、自分と社会、国家との関係を学ぶために、日本文化研究のテーマをかねて伊勢、奈良、京都を訪ねる。授業で日本の歴史文化を学び、実際に現地を訪ね、有形無形の文化遺産に手で触れ、目で見て確かめる。神話に始まる日本の歴史・文化・伝統を学ぶと共に、大切な家族といえども国家の守護なしには存続できないのだから、国の源を訪ね、建国の苦労と犠牲に感謝すると共に、社会・国家の仕組みや役割について学ぶことを狙いとしている。

③ 「世界・異文化」に係る学習

3年生では、世界へと視野を広げるため、異文化研究をテーマとしてイギリス研修旅行を実施している。グローバル時代と言われる現在においては、一国の繁栄や平和だけを願うは不可能であり、世界の平和、人類の幸福という視点から物事を捉え、広い視野を持つことが重要である。イギリスの歴史、伝統、文化に触れることにより自国のそれらと比較し、類似点や相違点に気づかせることも課題の一つになっている。



5月 園内での樹木観察（中1）



10月 萱刈の体験（中1）



10月 関西研修（中2）



3月 英国での日本の遊び紹介（中3）

なお、上記とは別に特に平成29年度より、課外の活動としてサイエンスカフェ・グローバルセミナーの実施、折り鶴プロジェクトへの参加、海外の学校とのペンパル活動、ウェブサイトを利用したアメリカの学校との意見交換などを始めており、平成30年度に向けてこの活動を拡大していく予定である。

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

- ・FlipGrid：クローズな環境下において動画を投稿することができ、テーマごとに日米の生徒が自分の意見などを交換する際に使用。
- ・Youtube：折り鶴の作り方動画をアップし、海外の生徒がそれに沿って折れるようにした。
- ・くらしのしきたり(伝統行事がわかる図鑑:5)
- ・図解日本人なら知っておきたい古事記
- ・日本の年中行事
- ・イギリスの生活と文化事典
- ・はじめて学ぶイギリスの歴史と文化

など書籍は多数

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（２００～３００字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校では、中学３年間の総合学習の時間を「自分プロジェクト」と名付け、未来を創造する知恵と逞しさを身に付けるオリジナルプログラムとして展開している。生命が誕生し健全に育つには、大自然の恵み、先人の苦勞の賜物である文化遺産や科学技術、そして家族をはじめ多くの恩人の支えが必要である。私たちが今こうして生きていられるのは、先祖からの生命が途切れることなく受け継がれてきたからだ。自分プロジェクトは、生徒がこれらの事実と恩恵に気づき、恩に報いることができる人間になることを目標としている。このような基本的な考え方が無ければ sustainable development を真に実現することは不可能であろう。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（２００字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

上記「自分プロジェクト」：１年生では、自分と自然との関係を学ぶため、３つのテーマ（①本校のキャンパス内に生育する約３００種類の樹木観察、②奥利根水源の森を訪ねるフィールドワーク、③森と人間社会研究）について学ぶ。２年生では、自分と社会、国家との関係を学ぶために、神話に始まる日本の歴史・文化・伝統を学ぶとともに、関西研修として伊勢、奈良、京都を訪ねる。３年生では、世界へと視野を広げるため、異文化研究をテーマとして１２日間のイギリス研修旅行を実施している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部／外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校として活動の質を向上するための評価が乏しいこと。詳細には実態調査や生徒の変容を調べるアンケート、数字などが無いことが一番の課題である。加えてユネスコスクール担当者が増員できないことも上記の課題が解決できない要因の一つである。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

ESD 推進拠点としての活動成果については本校の HP、公式 Youtube 等を用いてオンラインでの発信を行っている。また本校教員が参加した ESD 日米教員交流プログラムの ML および Facebook 等でも発信し、これまで以上に多くの学校との交流を目指している。これからの発信を見た方から連絡を頂き、新しいつながりに発展したケースもある。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

千葉大学：2月に行われる成果発表会に参加
ACCU：インド人教員の招聘事業に参加、年度末に行われた活動報告会に参加
フルブライトジャパン：日米教員交流プログラムに参加

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

日米教員交流プログラムでのネットワーク(MLを主に)によって、今年度は4校の先生方と連絡を取りあい、お互いの生徒たちの交流が実現している。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

教員：ユネスコスクールをチャンスと捉え、活動を広げたい、こういうことをしたい、と言ってくれる教員が現れた。

生徒：「先生のやっていることはおもしろい」と活動に積極的に参加してくれる生徒が増えてきた。

（3）平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

中学開校以来大切にしてきた「知恩・感恩・報恩」の心を育む「自分プロジェクト」（（2）②③参照）の内容を深化させたい。例えば、平成 29 年度には中学 3 年生のイギリス研修の際、「アドバンスト叡智コース」の生徒が現地校にて歌舞伎『勧進帳』を英語でプレゼンテーションし、日本の伝統・文化を海外に紹介することに寄与した。平成 30 年度も学年毎のテーマに立ち帰り、それぞれの活動に意欲的に取り組みたい。

加えて、平成 29 年度は、教養を深め、知的好奇心を刺激することで行動力を育てたいという願いを込め、授業以外に「サイエンスカフェ」と称して大学院生による研究発表会を開いたり、「グローバルセミナー」の名の下に 4 大学によるジョイントセミナーを実施したりした。

全ての教育活動は sustainable development を目指して展開されるべきだと考えるが、授業以外にも内容を精選しながら、未来の発展を担う生徒たちの資質向上に繋がる活動を取り入れていきたい。